

第 6 回リндаウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

所属機関・部局・職名： 京都大学・経済学研究科・博士課程 3 回生

氏名： 高梨 誠之

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

私がノーベル賞受賞者の講演で最も印象に残ったのは、Aumann 氏であった。Aumann 氏の発表はほかの多くの受賞者と違い、自らの研究発表とはだいぶ毛色の異なるものであった。それは、私にとってはある種の研究の方向性に対する suggestion であると感じた。御年 87 歳にしてなお、新しい研究の方向性を見出そうとする姿に私は強い感銘を受けた。

Pissarides 氏の講演も興味深いものだった。研究内容は私とは大きく異なり、AI の経済に与える影響についての研究であったが、AI についても一定の興味関心を持つ私にとって強い印象を残すものであった。

自分の研究分野と近い人物では、Maskin 氏が印象に残った。分野が近く、また、ひと月前の国際会議で内容の近い発表を聞いたこともあり、目新しさはなかったものの、分野の異なる聴衆に対する訴えかけ方、分かりやすさは今後の研究発表の際の参考になり得るものであったと思う。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカージョン等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

ノーベル賞受賞者とディスカッションやインフォーマルな交流を行う機会はなかったが、配偶者とダンスに興じる Tirole 氏の姿は印象的だった。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

ドイツで開かれていることもあり、関わる諸外国の参加者はヨーロッパ系、特にドイツの方が多かった。ヨーロッパ系の人と話し、その研究領域を尋ねると少なくない数の人が環境問題やそれに準ずる研究を行っていた。より年配の研究者があまりこの点の関心を持っていないことに不満を述べる人さえいた。この点に関する日本人との意識や文化の差を感じた。

参加者との交流の中で有益であったのは、来年以降所属する可能性のある研究機関に今年の秋から所属することが決まっている人物に会うことが出来たことであろう。現在はイスラエルの大学に所属しているようであり、研究内容について具体的に踏み込むことはなかったが、ここで交流を行うことが出来たのは有益であったと思う。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように活かしていきたいか。

日本人の参加者で、受賞者に自ら質問をぶつけに行ったりした方がおり、それは印象的であった。また、自分と近い分野の方もおり、話すことが出来たのは有益であったと思う。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

第一は、やはり受賞者の講演である。これほどたくさんの受賞者の講演を一週間のうちに聞く機会はこれからまず訪れることはないと思う。第二は、若手研究者による発表である。今、世界の若手研究者が何を考えているのかを知る機会を持てたことはよかったと思う。第三は、ディナーであった。どれもおいしく食べることが出来た。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット〔具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。〕

近い分野の一流の研究者から受ける刺激、分野の違う一流の発表を聞く機会をもてたこと、交流関係が多少広がることであると思う。

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

私が優れた研究を行い、将来的には優れた教育を施すことが出来れば、日本国内に還元されるのではないかと思う。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

私は参加者の中で最も英語力がなかったと自信を持って言えるが、英語力はあるに越したことはないと思う。

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業  
平成 29 年度 参加者アンケート

今後の事業改善の参考にいたしますので、アンケートにご協力くださるようお願いいたします。

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

- JSPS の HP
- JSPS のメールマガジン(JSPS Monthly)
- JSPS からのメールでの案内
- 所属機関からの案内
- 所属学会の HP、メールマガジン
- 日本人研究者からの案内(具体的に:[例]所属機関の指導教官、過去のリンダウ会議参加者等 )
- 外国人研究者からの案内
- その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

2. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

- 学術的な視野が広がった。
- 通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。
- 国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。
- 将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。
- 共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。
- 自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。
- web やメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。

3. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

- はい
- いいえ

4. 本事業について改善すべき点や、本事業の認知度を上げるためのアイデアがあれば、具体的にご記入ください。

ドイツの鉄道は少しわかりづらいので、その点に関して簡単な案内があればありがたいと思う。

ご協力ありがとうございました。